

取扱説明書



1.9GHz帯

デジタルワイレスアンプシステム ATW-SP1920

お買い上げありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、
正しくご使用ください。
また、保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に
保管しておいてください。

同梱品を確認する

本製品をご使用になる前に、下記同梱品がすべてそろっていることを確認してください。万一、同梱品に不足や損傷がある場合は、お買い上げの販売店またはお客様相談窓口までご連絡ください。



- ワイレスアンプ(ATW-SP1920)
- ワイレスアンプ専用ACアダプター
- φ3.5mmステレオミニケーブル
- 取扱説明書(本書)
- 保証書

別売品

- ・下記、別売品以外の製品には対応しておりません。
- ・用途に合わせてお買い求めください。

《受信機》

- ワイレスレシーバー
ATW-R190

《送信機》

- ワイレスマイクロホン(ハンドヘルドタイプ)
ATW-T190MIC
- ワイレストランスミッター
ATW-T190BP
- 《トランスミッター用マイクロホン》
- ヘッドウォーンマイクロホン(ヘッドセットタイプ)
PRO8HEW/P
- ラベリアマイクロホン(クリップタイプ)
AT829H/P

《ワイレスアンプ用バッグ》

- キャリーバッグ
CBG-1

目次

安全上の注意	2～3 ページ
使用上の注意	3 ページ
各部の名称と機能	4～5 ページ
ご使用前の準備	6 ページ
接続のしかた	6 ページ
ペアリングについて	7～8 ページ
使いかた	9 ページ
送信距離について	9 ページ
ワイレスシステムの増設について	9 ページ
お手入れについて	10 ページ
故障かな?と思ったら	10 ページ
外形寸法図	11 ページ
テクニカルデータ	11 ページ

安全上の注意

本製品は安全性には十分な配慮をして設計をしていますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。



危険

この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が切迫しています」を意味しています。



警告

この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。



注意

この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

本製品について



警告

- 付属のACアダプターと付属のACコード以外使用しない
故障、不具合の原因になります。
- 異常(音、煙、臭いや発熱、損傷など)に気づいたら使用しない
異常に気づいたら、お買い上げの販売店が当社のサービスセンターに修理を依頼してください。
- 分解や改造はしない
感電、故障や火災の原因になります。
- 強い衝撃を与えない
感電、故障や火災の原因になります。
- 濡れた手で触れない
感電によるけがの原因になります。
- 水をかけない
感電、故障や火災の原因になります。
- 火気に近づけない
変形、故障の原因になります。
- 布などで覆わない
過熱による火災やけがの原因になります。



注意

- 不安定な場所に設置しない
転倒などにより、けがや故障の原因になります。
- 直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所、結露する環境に保管しない
故障、不具合の原因になります。
- 持ち運びの際は、取っ手をしっかり握る
けがの原因になります。
- ハンドルや取っ手を持って振り回さない
けがや故障の原因になります。

ACアダプター／ACコードについて



警告

- AC100V以外の電源には使用しない(日本国内専用)
過熱による火災など事故の原因になります。
- 本製品以外には使用しない
過熱による火災など事故の原因になります。
- 異常(音、煙、臭いや発熱、損傷など)に気づいたら使用しない
異常に気づいたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店が当社のサービスセンターに連絡してください。そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
- コードは伸ばして使用する。釘などでの固定や、束ねたままでの使用はしない
過熱による火災など事故の原因になります。
- コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む
過熱による火災など事故の原因になります。
- コードを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする
断線、故障の原因になります。
- コードの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない
断線、故障の原因になります。
- 分解や改造はしない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- 強い衝撃を与えない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- 濡れた手で触れない
感電によるけがの恐れがあります。
- 布などで覆わない
過熱による火災など事故の原因になります。
- プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る
過熱による火災など事故の原因になります。
- ベンジン、シンナー、接点復活剤など薬品は使用しない
変形、故障の原因になります。



注意

- 長時間使用しないときは、コンセントから抜く
省エネルギーにご配慮ください。
- 足に引っ掛かりやすい場所にコードを引き回さない
故障や事故の原因になります。
- 通電中のACアダプターに長時間触れない
低温やけどの原因になることがあります。

ワイヤレス製品について

- 本製品は(財)テレコムエンジニアリングセンター(TELEC)の技術基準に適合しています。貼り付けられているラベルはその証明ラベルです。証明ラベルの貼り付けられた製品を総務大臣の許可なしに改造、または証明ラベルを剥がして使うことはできません。これに違反すると法律により罰せられます。
- 本製品は、1.9GHzの周波数帯域を使用します。この周波数帯域を使用するほかの機器との電波干渉を避けるために、下記事項をお読みのうえ使用してください。

- ・本製品は、1,895.616 ~ 1,902.528MHzの帯域を使用する、デジタルコードレス電話の無線局の無線設備です。
(一般社団法人 電波産業会 標準規格「ARIB STD-T101」準拠)

1.9-D

- ・本製品の使用周波数に関わるご注意

本製品の使用周波数帯では、PHSの無線局のほか異なる種類のデジタルコードレス電話の無線局が運用されています。

1. 本製品は同一周波数帯を使用する他の無線局と電波干渉が発生しないように考慮されていますが、万一、本製品から他の無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本製品の電源をお切りください。そのうえで、当社お客様相談窓口にご連絡いただき、混信回避のための処置についてお問い合わせください。
2. その他、何かお困りのことが起きたときは、当社お客様相談窓口へお問い合わせください。

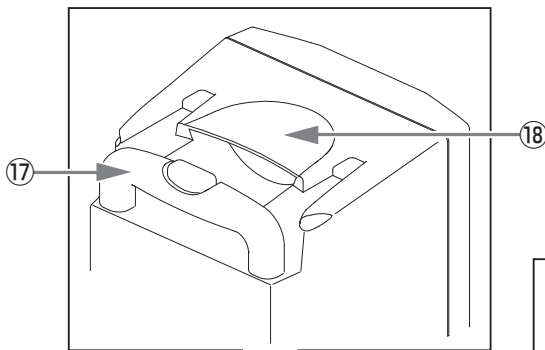
使用上の注意

- 本製品は日本国内のみで使用できます。
- 本製品は照明調光装置、コンピューター、OA機器、電子楽器、コードレス電話などの影響を受ける場合があります。影響を受けにくい位置に設置して使用してください。
- ラジオを接続しないでください。ラジオの音声にノイズが入ることがあります。
- ワイヤレスシステムを複数使用する際、同時に使用できる送信機は最大 5 台までです。周囲の電波環境によっては同時に使用できる台数が少なくなる場合があります。
- ワイヤレスアンプのハンドルは走行用です。ハンドルでワイヤレスアンプを持ち上げないでください。破損の原因になります。ワイヤレスアンプを持ち上げる際は必ず天面の取っ手部分を使用してください。

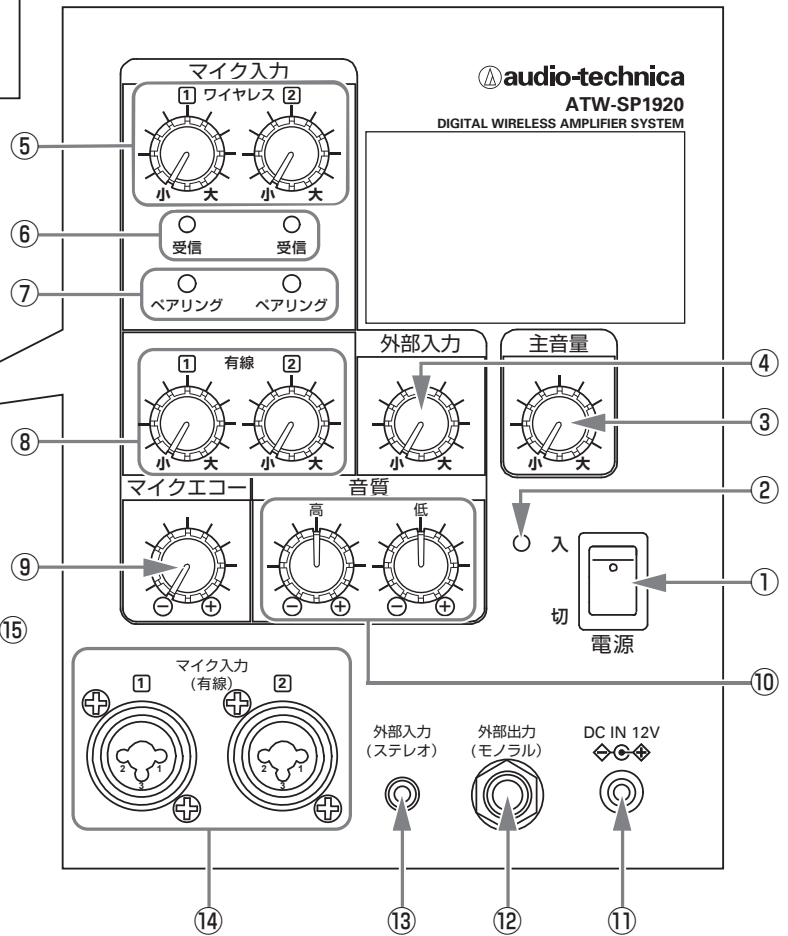
各部の名称と機能

ワイレスアンプ(背面)

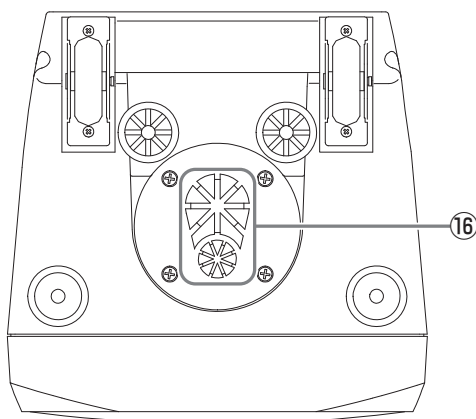
【天面】



【操作パネル拡大図】



【底面】



①電源スイッチ

電源を「入/切」します。

②電源インジケータ

電源状態を表示します。

青 点灯	電源「入」
消灯	電源「切」

③主音量ボリューム

スピーカーから出力される主音量を調整します。

④外部入力ボリューム

外部入力端子に接続された機器の音量を調整します。

⑤マイク入力(ワイヤレス)ボリューム

ペアリングした各送信機の音量を調整します。

⑥受信インジケータ

送信機との通信状態を表示します。

緑 点灯	送信機とペアリング状態
緑 点滅	ペアリング待機状態 / ミュート状態
赤 点灯	送信機と未通信状態

⑦ペアリングボタン

ワイヤレスアンプと送信機のペアリングをします。

⑧マイク入力(有線)ボリューム

各マイク入力(有線)端子に対応した有線マイクロホンや増設レシーバーの音量を調整します。

⑨マイクエコーボリューム

ワイヤレスアンプに接続している送信機、有線マイクロホンの残響レベルを調整します。

・ 外部入力、外部出力には影響しません。

⑩音質コントロール

ワイヤレスアンプに接続している送信機、有線マイクロホン、外部入力機器の音質を調整します。

「高」では高音を、「低」では低音を調整できます。

・ 工場出荷時はセンターに設定されています。

⑪DC入力端子(DC IN 12V)

付属のACアダプターを接続します。

⑫外部出力端子

ワイヤレスアンプの音を録音したい場合や、入力信号をそのまま別の機器から出力させたい場合に使用します。
φ6.3mmモノラル標準プラグに対応しています。

⑬外部入力端子

ポータブルプレーヤーなどの外部機器の音声信号を入力します。
付属のφ3.5mmステレオミニケーブルを使用して、外部機器の出力端子と接続します。

⑭マイク入力(有線)端子

マイクロホンを有線で接続します。φ6.3mmモノラル標準プラグ、バランス出力プラグ(XLR-M)の両方に対応しています。

⑮技術基準適合証明ラベル

電波法により定められた技術基準に適合していることを証明するラベルです。このラベルを剥がすことは電波法により禁じられており、罰せられます。

⑯スタンド取り付け穴

市販のφ21mmまたはφ35mm対応スピーカースタンドを使用する場合の取り付け穴です。

・ 使用するスピーカースタンドの取扱説明書を必ずお読みください。

⑰ハンドル

走行用のハンドルです。

走行する際に、ハンドル中央部を押しながら引き出して、使用してください。

走行以外の場合は、ハンドル中央部を押しながら収納してください。

⑱取っ手

持ち運びする際に使用してください。

ご使用前の準備

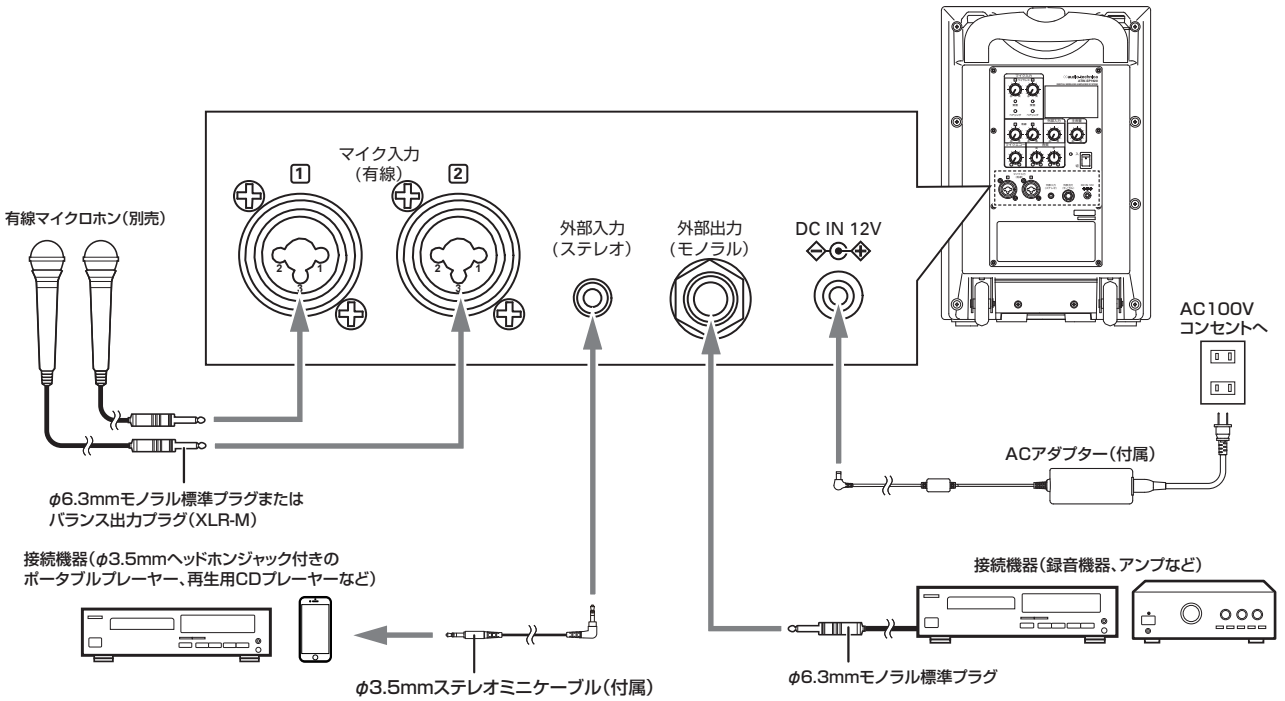
付属の AC アダプターを DC 入力端子に接続し、AC100V コンセントに接続してください。

接続のしかた

接続機器の取扱説明書も併せてお読みください。

接続の前にワイヤレスアンプの電源を切り、音量ボリュームを全て最小にし、音質コントロールはセンターにしてください。
また、接続機器の音量ボリュームを必ず最小にしてから接続してください。

1. 別売の有線マイクロホンを使用する場合、ワイヤレスアンプのマイク入力(有線)端子に接続します。
 - ・ 対応するプラグ形状は、 $\phi 6.3\text{mm}$ モノラル標準プラグまたはバランス出力プラグ(XLR-M)です。
上記以外のプラグ形状の場合、市販のケーブルまたは変換プラグを使用してください。
 - ・ プラグインパワー専用マイクロホンは使用できません。
2. 接続機器を使用する場合、ポータブルプレーヤーやCDプレーヤーなどは付属の $\phi 3.5\text{mm}$ ステレオミニケーブルを使用して外部入力端子へ、録音機器やアンプなどは外部出力端子へ接続します。
 - ・ 外部入力に対応するプラグ形状は $\phi 3.5\text{mm}$ ステレオミニプラグ、外部出力に対応するプラグ形状は $\phi 6.3\text{mm}$ モノラル標準プラグです。
 - ・ 付属の $\phi 3.5\text{mm}$ ステレオミニケーブルは L 型プラグをワイヤレスアンプと接続してください。



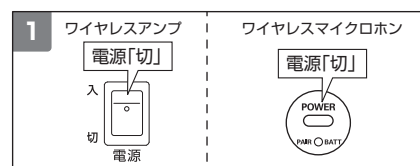
ペアリングについて

- ・ワイレスアンプは送信機とのペアリングを行うことにより、送信機の音声をワイレスアンプのスピーカーから出力することができます。
- ・本ワイレスアンプ 1 台につき、マイク入力 **①** と **②** で 2 台の送信機を接続できます。
- ・送信機を使用する際には、ペアリングを行ってください。
- ・ペアリング後に別の送信機とペアリングする場合は、ペアリング解除を行った後で、改めてペアリングを行ってください。
- ・ペアリングまたはペアリングの解除をする際、ワイレスアンプと送信機の距離は、3m 以内で行ってください。

ペアリングを行う

ワイレスマイクロホンでの操作を例に説明しています。

1. 本ワイレスアンプと、ペアリングさせたいワイレスマイクロホンの電源を切ります。



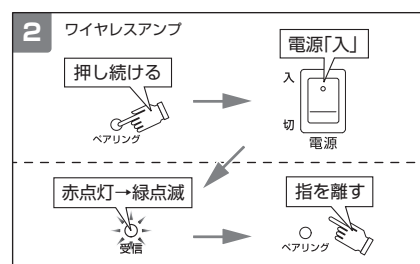
《ワイレスアンプの操作》

2. ペアリングボタンを押しながら、電源を入れます。

- ・電源を入れたあともペアリングボタンは離さずに押し続けます。

ペアリングボタンを押し続け、約 3 秒経過すると受信インジケータが赤点灯から緑点滅に変わります。赤点灯から緑点滅に変わったらすぐに指を離します。(ペアリング待機状態)

- ・5 秒以上長く押し続けてしまうとペアリングできないことがあります。その場合は、もう一度はじめからやり直してください。
- ・ペアリング待機状態で約 10 分経過すると、ワイレスアンプのペアリング待機状態は解除されます。



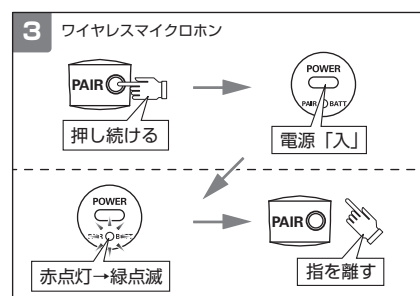
《ワイレスマイクロホンの操作》

3. グリップを外し、ペアリング / ミュートボタンを押しながら、電源を入れます。

- ・電源を入れたあともペアリング / ミュートボタンは離さずに押し続けます。

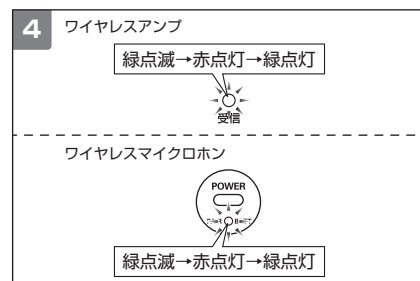
ペアリング / ミュートボタンを押し続け、約 3 秒経過すると電源 / ペアリングインジケータが赤点灯から緑点滅に変わります。赤点灯から緑点滅に変わったらすぐに指を離します。(ペアリング待機状態)

- ・5 秒以上長く押し続けてしまうとペアリングできないことがあります。その場合は、もう一度はじめからやり直してください。
- ・ペアリング待機状態で約 2 分経過すると、ワイレスマイクロホンのペアリング待機状態は解除されます。
- ・ワイレスアンプ ⇒ ワイヤレスマイクロホンの順にペアリング待機状態にしてください。先にワイレスマイクロホンをペアリング待機状態にすると、ペアリングできないことがあります。



4. ペアリングが完了すると、ワイレスアンプの受信インジケータとワイレスマイクロホンの電源 / ペアリングインジケータが赤点灯に変わったあと、緑点灯に変わります。

- ・ペアリングが完了しなかった場合は、もう一度はじめからやり直してください。
- ・一度ペアリングをすると、次回からは自動的にペアリングされます。



ペアリングの解除

ペアリングの解除はワイヤレスアンプでのみ行うことができます。送信機の操作は必要ありません。

1. ペアリングを解除させたいワイヤレスアンプとワイヤレスマイクロホンの電源を切ります。

・ワイヤレストランスミッターの場合も、ワイヤレスマイクロホンと同様になります。

《ワイヤレスアンプの操作》

2. ペアリングボタンを押しながら、電源を入れます。

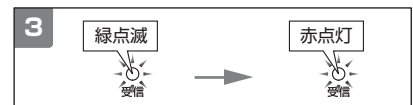
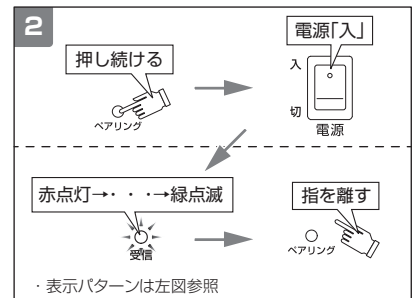
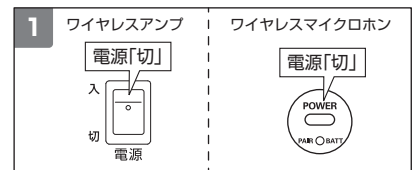
・電源を入れたあともペアリングボタンは離さずに押し続けます。

ペアリングボタンを押し続けると、受信インジケーターが下図のように変わります。約 20 秒経過し、受信インジケーターが緑点滅に変わったなら指を離します。

受信インジケーター表示パターン(ペアリング解除時)			
経過時間	約 3 秒	約 10 秒	約 20 秒
表示			
	赤点灯・・・消灯・・・赤点滅(2回)・・・消灯・・・緑点滅		

3. ペアリングが解除されると、ワイヤレスアンプの受信インジケーターとワイヤレスマイクロホンの電源 / ペアリングインジケーターが赤点灯に変わります。

・ペアリングが解除されなかった場合は、もう一度はじめてやり直してください。



使いかた

■ ワイヤレスアンプ

1. 主音量ボリュームを最小にし、電源スイッチが「切」状態になっているか確認します。
2. 電源スイッチを「入」にして電源を入れます。

■ 送信機(別売)

1. ワイヤレスアンプの電源を入れた後、送信機の電源ボタンを押して電源を入れます。
2. ワイヤレスアンプのマイク入力(ワイヤレス)ボリュームの位置をセンターにします。
3. 送信機に音声を入れながら、ワイヤレスアンプの主音量ボリュームで適切な音量にしてください。

・ワイヤレスアンプの受信インジケータと、送信機の電源 / ペアリングインジケータが緑点灯するまでに約 3 ～ 5 秒^{*}かかります。
※使用条件により異なります。

■ 有線マイクロホン(別売)

1. ワイヤレスアンプのマイク入力(有線)端子に、使用する有線マイクロホンを接続します。
2. ワイヤレスアンプのマイク入力(有線)ボリュームの位置をセンターにします。
3. 有線マイクロホンに音声を入れながら、ワイヤレスアンプの主音量ボリュームで適切な音量にしてください。

送信距離について

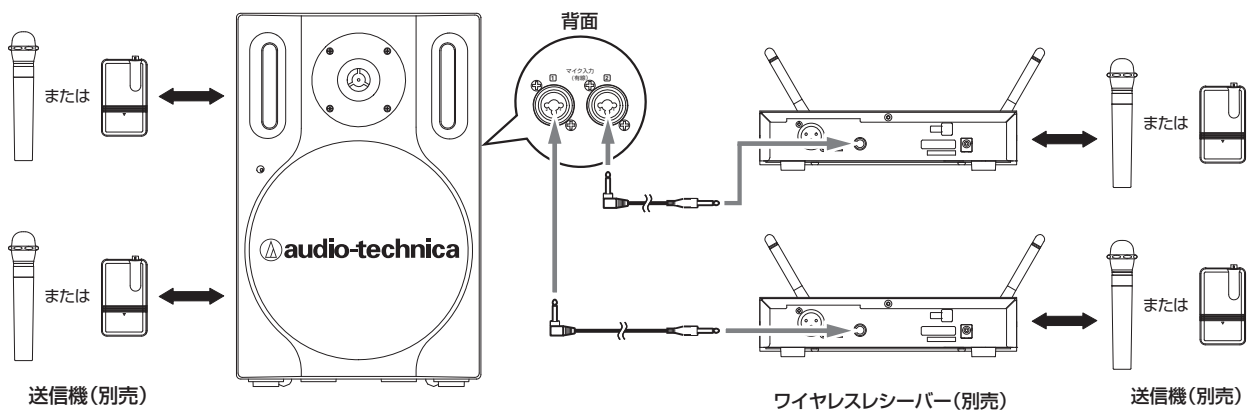
ワイヤレスアンプと送信機は約50mの距離まで使用できますが、障害物がある場合や建物の構造、周囲の電波環境などによっては使用可能な距離が短くなる場合があります。

ワイヤレスシステムの増設について

別売のワイヤレスレシーバーと本製品を接続することにより、同じスピーカーから音声を出力することのできる送信機を増設できます。

増設する際は、本製品のマイク入力(有線)端子と別売のワイヤレスレシーバーの音声出力端子を接続します。

- ・ワイヤレスレシーバー(別売)の取扱説明書を併せてお読みください。
- ・接続用のφ6.3mm モノラル標準ケーブルはワイヤレスレシーバー(別売)に付属されています。
- ・ワイヤレスアンプはワイヤレスレシーバーを 2 台増設することができます。増設により本ワイヤレスアンプは最大 4 台までの送信機を接続できます。



お手入れについて

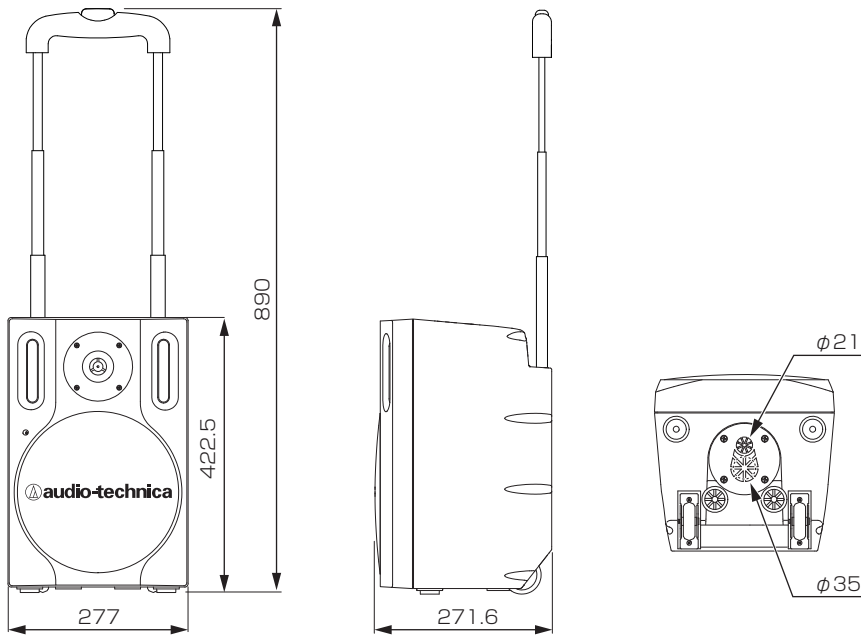
- 汚れたときやほこりが付いたときは電源プラグを抜いてから、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 長い間保存する時には、機器をビニールなどで包み、湿気を帯びないようにしてください。

故障かな？と思ったら

症状	ご確認ください	対処方法
ワイヤレスアンプの電源が入らない	AC アダプターがコンセントから外れていませんか？	P.6の「接続のしかた」を参照してください。
送信機、有線マイクロホンの音声が出ない	ワイヤレスアンプの各ボリュームが最小になっていませんか？	P.4～5の「各部の名称と機能」を参照してください。 送信機の取扱説明書を参照してください。
	送信機の電源が切れていませんか？	
	送信機がミュート状態になっていませんか？	
	送信機がワイヤレストランスミッターの場合、音量ボリュームが最小になっていませんか？	P.6の「接続のしかた」を参照してください。 P.7の「ペアリングについて」を参照してください。
	有線マイクロホンのプラグがマイク入力(有線)端子から外れていませんか？	
	ワイヤレスアンプと送信機がペアリングされていますか？	
ノイズが出る	近くに蛍光灯や電気器具などのノイズ発生源はありませんか？	P.3の「使用上の注意」を参照してください。
	各ケーブルは確実に機器に接続されていますか？	P.6の「接続のしかた」を参照してください。
ワイヤレスアンプが受信しない、電波の送信距離が短い	ワイヤレスアンプと送信機がペアリングされていますか？	P.7の「ペアリングについて」を参照してください。
	送信機の電池残量がなくなっていないですか？	送信機の取扱説明書を参照してください。
外部接続機器の音が出ない	接続機器のプラグが外部音声入力端子から外れていませんか？	P.6の「接続のしかた」を参照してください。 外部接続機器の取扱説明書を参照してください。
	接続した機器は再生モードになっていますか？	
	接続した機器のボリュームが最小になっていませんか？	
音が割れる	入力信号が大きすぎませんか？	ワイヤレスアンプの主音量ボリュームや外部接続機器の出力レベルを調整し、音量を下げてください。
音が小さい	入力信号が小さすぎませんか？	ワイヤレスアンプの主音量ボリュームや外部接続機器の出力レベルを調整し、音量を上げてください。

外形寸法図

(単位：mm)



テクニカルデータ

電源 : DC12V(付属のACアダプターを使用)
 消費電力 : 27W(定格出力時)
 再生周波数範囲 : 110~20,000Hz
 使用温度範囲 : 5~45℃
 外形寸法 : H422.5×W277×D271.6mm
 (ハンドル収納時)
 質量 : 約6.5kg
 付属品 : ACアダプター(AD-SM1238LO)
 : $\phi 3.5$ mmステレオミニケーブル
 (L型プラグ - ストレートプラグ)

■ワイヤレス部

使用周波数 : 1895.616~1902.528MHz
 無線方式 : 1.9GHz DECT準拠方式
 周波数特性 : 100~10,000Hz
 受信数 : 2チャンネル
 アンテナ : 内蔵アンテナ(ダイバーシティ)
 通信距離 : 約50m(見通し時、妨害電波がない場合)

■アンプ・スピーカー部

最大出力 : 18W
 最大出力音圧レベル : 108dB(JEITA)
 定格歪率 : 2%以下
 入力インピーダンス : マイク(有線 $\phi 6.3$ mmモノラル) 1k Ω
 マイク(有線 XLR/バランス) 10k Ω
 外部入力 47k Ω
 S/N比 : 65dB以上(外部入力端子)
 エンクロージャー型式 : パスレフ(位相反転型)
 スピーカーユニット : $\phi 20$ cm コーン型フルレンジ
 $\phi 2.5$ cm ドーム型ツイーター

改良などのため予告なく変更することがあります。

お問い合わせ先(電話受付/平日9:00~17:30)

製品の仕様・使いかたや修理・部品のご相談は、販売店または当社窓口およびホームページのサポートまでお願いします。

●お客様相談窓口(製品の仕様・使いかた) ☎ 0120-773-417

(携帯電話・PHSなどのご利用は 03-6746-0211)

FAX: 042-739-9120 Eメール: support@audio-technica.co.jp

●サービスセンター(修理・部品) ☎ 0120-887-416

(携帯電話・PHSなどのご利用は 03-6746-0212)

FAX: 042-739-9120 Eメール: servicecenter@audio-technica.co.jp

●ホームページ(サポート) <https://www.audio-technica.co.jp/support/>

アフターサービスについて

本製品をご家庭用として、取扱説明や接続・注意書きに従ったご使用において故障した場合、保証書記載の期間・規定により無料修理をさせていただきます。修理ができない製品の場合は、交換させていただきます。お買い上げの際の領収書またはレシートなどは、保証開始日の確認のために保証書と共に大切に保管し、修理などの際は提示をお願いします。